

1. 「資料2」の目標達成度が低い主要指標（40%未満）等について

(1) 指標2-3「中心市街地の店舗のうち営業している店舗の割合」

(委員)

- ・ 鹿児島市中心地の地価は上昇し続けている。また、建物の維持管理等の不動産の運営コストも上がっているため、家賃は上げていかないといけない。
- ・ 中小企業においては、家賃を下げた欲しいとの話をよく聞く。中小企業を出店したい方とマッチしていないのが現状。
- ・ 「かごしま・リビルド・トランスフォーメーション事業」(市街地まちづくり推進課)があるが、事業内容は、老朽化した建物の建て替え支援であり、建て替え以外の支援がない。出店する側への支援(家賃補助等)はあるが、貸す側の支援(空調等)がないため、貸す準備ができるような支援があった方がいいのでは。

(2) 指標1-2「新事業・新サービスへの取組数」

(委員)

- ・ オープンイノベーション創出支援事業について、事業者伝える力が足りない。一方で、事業者側も情報をキャッチする力をつけていく必要がある。

(委員)

- ・ 商工会議所では、小規模事業者を中心に支援している。
- ・ 情報を取得できない方(高齢の方)へは、窓口と巡回でサポートしているほか、会報を紙媒体でも発行している。
- ・ センサスによると小規模事業者数は減ってきているが、補助金の伴走支援(申請書作成⇒実行⇒精算)では、1事業者あたりと関わる頻度は増えてきており、マンパワーの面で、職員の比重と事業者支援のミスマッチを感じている。

(委員)

- ・ オープンイノベーションの範囲を海外に広げていくと可能性や機会が広がる。
- ・ 熊本市では、市内の事業者と海外を繋げるという観点で、海外向けの英語の資料作りやピッチ(プレゼンテーション)の準備を行うにあたり、専門家を招聘して訓練するという取組を行っている。
- ・ マークメイザン発のスタートアップ企業であるファーマーズサポート(株)やソーホー鹿児島発のLINK SPIRITS(株)など、海外にも打って出るようなビジネスやサービスを開発している事業者が市内にも多くいるため、いかに海外へつなげるか。

- ・グローバル市場への支援を行うことで、オープンイノベーションの範囲も広がるのでは。また、グローバル市場への可能性を示すことで、外部から鹿児島に来て起業するといった循環が生まれると思う。

（委員）

- ・マークメイザンやソーホーの事業者でオープンイノベーション創出支援事業に関連した事業者はいるか。
- ・オープンイノベーション創出支援事業は、海外も念頭に置いた事業か。

（事務局）

- ・オープンイノベーション創出支援事業では、オープンイノベーションプラットフォームを利用し、全国の様々な企業との共創支援を行っている。
- ・昨年度のマークメイザン入居事業者も伴走支援に参加し、共創開始まで至っている。
- ・海外までは念頭に置いた事業ではないため、今後の参考にさせていただきたい。

（委員）

- ・当会社とつながりがある事業者（高齢の方）には、「オープンイノベーション」という言葉が分からない。オープンイノベーション推進事業は新規創業も対象か。

（事務局）

- ・現在事業を行っている方向け。

（委員）

- ・セミナーや市民だよりなどで、「オープンイノベーション」という言葉を理解してもらうことが大切。かみ砕いて一般の事業者も理解できるような伝え方になるといいのでは。

（３）指標 4-1「鹿児島公共職業安定所（ハローワークかごしま管内）新規学卒者の県内就職率」

（委員）

- ・学生の視点だと、SNS（Insta、TikTok）の影響が大きいと思う。SNSで自社の魅力を発信している企業に行きたいという声もある。
- ・就活に向けた取組は、東京や大阪、福岡などの大都市で行われており、ES（エントリーシート）免除などの言葉に惹かれ、説明会に参加する。

- ・ 鹿児島企業の魅力を伝えるため、鹿児島企業と大学生とのグループワークを行うといった就活支援はどうか。

(委員)

- ・ 鹿児島課題解決について考えるイベントはありそうでなかった。
- ・ 周りで県外志向が高まっている傾向はあるか。

(委員)

- ・ 県内企業には、県外企業のすべり止めとして受けるというような考えがある。

(委員)

- ・ SNS の活用について意見はあるか。

(委員)

- ・ SNS を始める企業はあるが、1・2 か月でやめていく印象。

(委員)

- ・ 市がバックアップして引き上げることができれば、県内就職に向けた大きな力になるのでは。

(委員)

- ・ 「かごしまクリエイティブライフ」に企業側として参加したことがあるが、内容は、永吉委員の意見（企業と大学生とのグループワーク）に近い。
- ・ 学生版として、既存の事業が活用できれば面白いのでは。

(委員)

- ・ 県外の学生が鹿児島について考えるのもいいのでは。

2. 商工業振興プランの重点プロジェクトについて

(委員)

- ・ 付加価値をあげることが必要。主な取組「高付加価値化の向上」については、何か新しいことをしなければならないと感じてしまい、取り残される事業者が出てくるのでは。
- ・ 根本的には、価格転嫁の推進をしたいのでは。

(委員)

- ・鹿児島に限らず、人口減少や若者流出については、止められないことが前提で、付加価値をあげていかないといけない。
- ・鹿児島市はサービス業の割合が高いため、DX・AX化が必要になってくる。
- ・一概にDX化と言いたくなるが、市の特徴に沿った施策を立ち上げる必要もある。
- ・若者に対しては、県外に出た後に戻ってきてもらうことに力を入れるべき。

(委員)

- ・女性の働きやすさについて、何か施策はあるか。

(事務局)

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでおり、育休の取得など柔軟な働き方に取り組んでいる企業や女性管理職の割合が増えた企業に奨励金を出している。
- ・ワーク・ライフ・バランスに取り組みたいが、何から始めたらよいか分からないという企業に対しては、アドバイザーを派遣するなど、伴走支援を行っている。

(委員)

- ・ワーク・ライフ・バランスに取り組む事業者が増えているという実感はあるか。

(事務局)

- ・市では、3年に1回、企業向けのアンケート調査をしているが、育休取得率はR4からR7で軒並み上昇している。

(委員)

- ・海外展開の促進とインバウンド対応について、海外の方に意見を聞く機会があり、交通系IC(Suica)を使えるようにしてほしいという意見があった。
- ・海外の方は、グーグルのロコミを見ているため、力を入れては。

(事務局)

- ・Suicaの導入はコストの面で難しいと聞いている。
- ・近々Pay donでも市電・市バスが利用できるようになる。また、既にクレジットカードのタッチ決済でも乗れるようになっており、インバウンドの方はこちらを活用いただいているのでは。

3. 地域経済ビジョンについて

(委員)

- ・指標「農林水産業産出額」について、水産や林業に比べ、農業の目標比が100%を下回っているが、農業は苦しいのか。

(事務局)

- ・水産は、養殖業が大半を占めており、生け簀を増やしたことが関係して売り上げが伸びた。
- ・林業は、これまでは木を間引く間伐作業を行っていたが、木が大きくなり、伐採を行った結果、伐採した木材の量が増え、数値が伸びた。
- ・農業の現状は厳しいが、水産や林業には数値を大きく伸ばした理由があった。

(委員)

- ・指標「農林水産業産出額」について、利益率があった方がいいのでは。

(事務局)

- ・農林水産業で売上が上がった場合、新たな機械へ投資するため、売上が上がったにもかかわらず所得が減ってしまう。
- ・投資を念頭に置くと、所得は変動してしまうため、今期農林水産業振興プランについては、産出額を設定したが、次期プランは検討する。

(委員)

- ・4つの指標は関連しているため、鹿児島市の中でも好循環していく流れを作っていければと思う。

(委員)

- ・指標「農林水産業産出額」については、良好だが、鹿児島市の何の施策がこの結果に結びついたのか。

(事務局)

- ・スマート農業への支援、6次産業化、農商工連携、地域のイベントでのPR等を行った。

(委員)

- ・農業にAIを入れるのはハードルが高いが、市の考えは。

(事務局)

- ・スマート農業については、広い農地を自動で耕す機械があるが、土地が狭い鹿児島市では、役に立つかわからない。
- ・都市農業センターでは、市にあったスマート農業施策を選抜して行っており、ハウスの自動開閉、アシストスーツの導入等を行っている。

(委員)

- ・指標「宿泊観光客数」以外について、円の価値は変化しているため、量や率で表す方がいいのでは。
- ・建築業では、数年前 5 億で建てた建物が今は 10 億になっている。売上は上がっているが、建設量は減っている。円換算は大事だが、量や率の方が具体的に把握できるので。